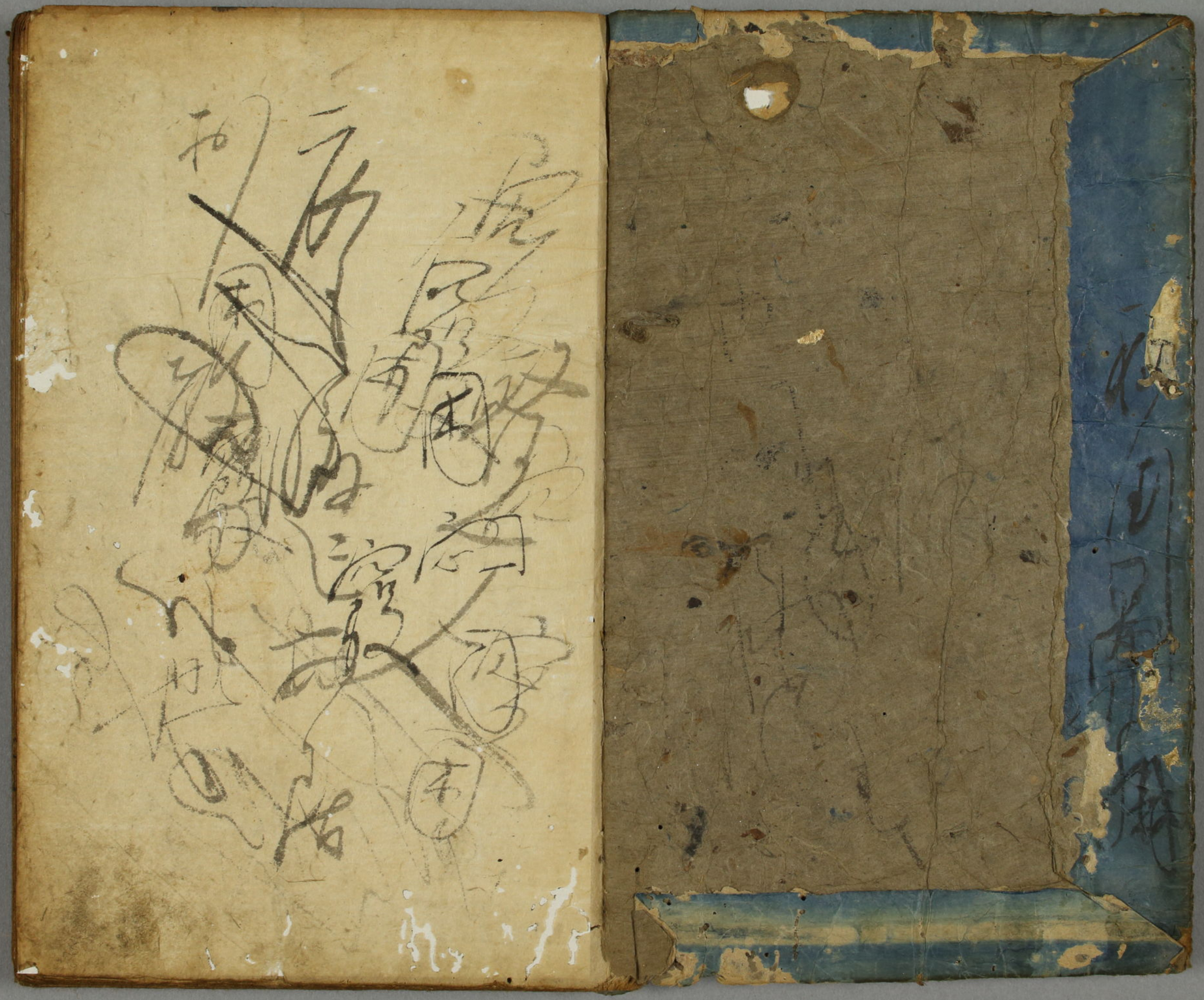

益軒貝原先生述

楽訓

洛陽 書舗柳枝軒藏版

楽訓巻之上

總論

わがこころ天地のこころとひとしくいきとしいけるものの
きこころなさ間よ人くるわたらうとおもひい
くんとおもひて人々第一の靈ものにあり天地
人をあはれみ生まれこさあるを事にしたがひて
ものとなりふるまひ物にあうあめく人の道とも
されば天地人生れいきる人の心をとしなひ

人のゆくべき道といふべきなり
まことにわきまへしるべきことなり
私て人を情なくもてなんこと
ひとえにいとしいとおもひて
ふかきこころざしをもつて
つとめとうるひと人とをなるべきなり
といふこころをもつて
先ほどからもんこをもつて
先ほどからもんこをもつて

学いはくこの字を過ちなくれとこの字
事をよくしるべしこの字なる人をいふなり
まことにあるべきの道とまことにあるべき我らのなかに
先ほどからもんこをもつて
学ぶ人は仁をもつて出でまして仁と
何をかわれこの仁をもつて出でる
しるべきなり仁とは人の道
仁とは人の道なり

とかくらいあるべし乃聖人は人倫道
あり世道よりもてうしくこころのうちに
しまりあて人のたとへ行なんこそ人とまれたる
ひとりとく彰を推う云をんこそとはうら
こゝろうる人々れ
おもて人かたんよりこゝろはうけはくるを和の元宝
ひろ見人乃いけるはるり事まれ發生してや
まさるりあくつねよりる公れ間よを様乃いそも

やこゝろきこゝろるいさゆひのやまさ彩りある
もとゝ云はゝ宝て、朱ゝ云ゝ人乃公の生理をあて
即光仁の理るり只賢者のくひ朱あるふ所乃
あゝ乃人を皆これあるとされてまるこされを
ひ朱ゝ乃ゝ人暴よ百姓用ゝに用ゝもとゝ
あるあゝ又私慾ようゝいされく此朱とゝ
ひゝり賢ゝ人ひ朱ゝ乃ゝ又私慾乃まゝひなく
して生ゝ生ゝ人乃ゝ朱あるゝ所乃

獸等本毋も世界あり第本乃地ひ毛ゝりむさ
き實のつと毛れさえはり獸れたもつまあそひ
書の兎んゝ実よいゝり魚汁ゝちよ地るも陸
世界とはゝるありされども人とゝ世界
もゝとして生ゝりいゝんや毛獸ハ毛ゝ及とた
人毛心の間よりとゝり世界あゝ界獸ゝ毛れ
世ゝゝゝ所ゝて界ゝ世ゝゝゝと毛ゝ毛ゝ毛
世ゝり流れ出ゝる世ゝあゝりあゝ成ゝるゝあゝ

又ハ耳目口鼻形(ケイ)の五ツに物に随ひそれぞ
れ色を見声をきゝ物に随ひ善(カ)あしきをうけ入る
うける五つのまゝに欲すくなくしらさざるハ
何事もさきるさなくまに楽しみなきる事なし
是ハ物を以て楽とするまゝにかはり又物に
かれて甚しくきらひくるしきをゆく楽ハなし
ていくるまの何ハなりとも人まかせの内よ生
まれ付る楽なる也人ハ物にかれて甚職とゆく

内なる楽さかんなるにあらずたゞ人ハ人ともとより
生れ付る元気何にて是生命のもとなるそれと
飲食衣服などのかくらの楽しみハ皆まがいものなり
悪く元気をそこなふとて物の楽を以て内の
楽を害する物にある飲食衣服の楽を以て内
なる元気を害するもし又心の内ニ楽あれバ
飲食なとの外に物もひと皆楽あれとなり
かのかたちハ翫(アンズ)ゆへ目の前にまうする天地の

大なる事ハ月日の明らかなる光四州に照わたり
ゆく序にしたかふ折々の景気ハうつりかはり
さ波ゐ雲烟のたなひきたる朝夕の変態山のて
らしまひ川のなかれ風乃ふきさる木葉のちりはひ
雪のさしたるものしをれ芳草乃さく人あり木
のうてひまつれ飛鳥獣虫魚のたくひまてに其
物のいきのやまさる心ありておもしろき趣
なきに思ひなりぬ心に對されて其色を閑さ其情

を清くして其色を感し興し鄙吝とおもひ言
をくしそを天機に觸發すと云觸發とハ物に触
れて其色をおこしてとりて其物の趣
かゝく心の思をたるとくる也
業ハさる人ハ内にある思をあらはし又物の趣
しまくも内外二ッなくし其ある
聖人の中にかくれて言の字を説出で直を其方をと
いへんと思ひ言乃身にせらたる事と志るへし

積徳よと仲志けしきも和と云事まされる
事なき故なりとも其楽を失ハされバきさ
たれ有をあらしと心欲よあしその人をこしめる
ある皆この主を我とせんし只賢者まゆづるへからず
むさぼ楽閑よる事に八陣め身をとうるかても仏ひるて數
ゆるかるす限ても富の家とうるから限ゆくなる
へし
善此乃中あくことうけく人をありて善此の中仏とう

けくなくやし人あしあれて善此の中によまさる
あひから仁仏とたらく限ねよ来らして温和慈
愛あく惜あく人をあわれてあくく苦をゆ
みゆといふ事ときへし人の悪といふらし其れ無る
罪八やむ事と従あれて人ら限ねよハ和楽身し
て甚宇と安のへしされて又和よ生一あく積る
あれて一編よ其れ乱る事く欲らうし和よ
人乃とれひ昔をきんて事るく人の婦とある事

とかくことにかしは嵩にしをあらはれて何ゝ人
をそこなひかくてかりそめも人を妨けくるしむ
かくは我ひとり心にそむく人とくるしむるは天の
みくミゆへ雲ぬ地そろへしく人くるしむ者に出しは天のよ
ろこひたまへ理ありて誅のことなり
此故に天の道にそむきひ人の道を行ひくるしか
らこ出しこ人をたのしましめんるへはねに苦と
行ひ悪を去といふことをこへしめてのふくに

せん事ハみちのはしめすへし只いしくの道
とするんて其理をもちふへし
人みしくミいつの自然より人とそむくは人の不仁に
よるとせゆ人の出てくる我らあらそひ徳をいるゝは其
罪ならりたゞ出をもちふるにてなり根にて
難しとさるゝ心を廣くまく人々をあやまちあさるは罪
本なる道も和らげてなからにて出を失へはいさぬ道之
世乃人のいの事多くきいうこ世のありされいはれ

ものしりあるくもまちがいさうは愚人なり
賢人といへどもものしらぬ人の愚なるにより
つてそいろくさまざまとなりやまとの人のこの
しるまれすくるハ其人のこの不善なりあれむ
ものしりなるあつらくくこうえんこうのう
なるひとの人のあきなるこの玉と光る
ハ愚なり
小人のまれな思ひかけぬあきなるさとりて結

なるひとの事とかくこのなる様逆のもれのるまこむ
うまれかなさ世のなるいるわれ歳人いさうそ
あるへまれと思ひのりくこうこいるへ人のこ
光輝の賢とこるなるの不肖なるといんまた
くくしるるる身親戚なるいかえくもさう
かとんハせあるるくくわとしるへ人の
生れすくこ青るるもるの人のこの
とこの善のるるも結天命るわくこうのるる

三人といのりて出て共にすなれハ
然らは桜さかりに見んと月のまくり
ちらして来しきかりかはりともをも去
秋はあはれふかくも盛なれハ月むかふべくも情深し
雪見の時もよりしかれとものまれハ思ひ絶より
ふかりく身をおさめ不仁めして人とくるしめ
さけすいのちきり紙のこゝに給ひくるしみ
あいのちは用とさかく月日をおくるまでなし

也大し
無はてらかめて世の理よく思ひえて物に情ふ
らん人をすてて身にはある歎ほどある節も身
乃身の国恥りにはきそて天地陰陽の名の
給ひとまてあるひ天地の内なる万乃あ
つまき成とみえ之はてひて耳目ところて
そしめ気我快くし其味梅のたまくして身乃
まひ是の子ころすとさつさる人し

世の人まことしくてハうまひらかに富貴さうに
やうそ思ふく富貴あるそハれらうおそらくて欲
とほしいまくあり財をついやして生をうしむ
もとく欲ふかくもとくくるしくくるしくくるしく自らくるしく人を
くるしくまた心とくく富貴も貴賤も長短ひ
ひとあらくくにとをとをされくくるしくこのこゝそ
思ふし
円の宗とおもふ耳目といふかの宗とおもふ様くく

て真欲ふかやまこれをとる拙者の富貴のう
ろうきを感とれく其宗ひさらに心宗的々つ
祝ふ円のまくこゝろくてあまりあるこれをそのの
しある人いとかりも水月むの自とおもふ人々
こいおもひるふとしたくるもてうあるこれを
一法とおいやさ乎ふまるせくはあまれ
うくに用まこゝとつきひはけねふまうる拙そてま
うとれくも人いとひいうくるれくこゝ水月の

[illegible]
四きのまりたるさ、出さ[illegible]
乃孺(ケウ)とうしやまひ甚乗冨さ[illegible]
ひ乗ぬ[illegible]ひ人ハ乗ひ
[illegible]て[illegible]れて甚乗
佐乃乗ハ甚乗いまさやまさるふるやくうる身
のひ[illegible]ひ[illegible]ひ人く味[illegible]ひ[illegible]
つまくかりかまるのくひ人ハ快[illegible]

やうく病ぬ[illegible]身の若[illegible]
佐乃乗ハ乗ハ乗とまるよハ[illegible]身とと[illegible]ひ人と旨
ましひ君乃乗ハまひたくて乗と中る
和和をハいく月むとあくく水と見風冷し
乗とうしやひ乃ぬ甚乗清(ケウ)まれひ移ぬ乗
しあ[illegible]も身ようさうひるく人ようう免神の
いさひうまにあひぬひ乗乗病あるくもはや
まく後のうまくひ冨きの人ハ甚おうれ

こゝろよすさみくゝけ生とゝ成る人ゝ世
二乃尖とゝ色表ゝ成れ仏出をはやゝ
者ゝハ見ゝるゝとゝ成りしゝ成りゝ成けゝハ身美し
きれゝも仏富めり市場ゝ知恵者(メトウシ)ハ仏富りゝ成る
くゝしゝ小人ハ身富めれゝも仏徳ゝ成りゝ多く
してゝあゝゝれゝゝ成りゝ郷ゝ成ハ只仏出ゝ成ゝ
ゝゝ美徳とやゝゝん富きゝと称ゝゝゝ成りゝ事
とゝやゝゝん考ゝくハいゝくゝ成ゝ成る事を

たりうる資格と難んとへり
若子小人ともに生るに性のひとしい人情なりされども君
子小人乃生ずるに至る所以の理は禮記に君子は
道をもつて己れを以て欲を制するに小人は欲をもつて事を
己れを以て欲を制するに小人は道をもつて己れを以て欲を
制するに小人乃生ずるに至る所以の理はそれ必者ある
天地の風雷水火あるがごとく必ずこれ人

患難あるとも和生を失なわざるべし人の身は
川の流るるがごとく日々に往て返ることなし
と人の心を自寛くとなし土御門院の御歌に
うき世にはのがれぬそこそ生れ死ぬまち
かくうの山の人歌にはこれ世をうるものなり
ひそかに物のあるをさらんと又曰なりひ
ろし男ひとりなりなき海人我身ひとりのうき
世なるかな神くさとりのうわしうき世なるを知ハ

八さう事多く是世乃ものこひたりいろる大富者
なる者乃つき人と分よ病なくいのち長く歳盛
にうまひたく立福そなろうたふすんのよう人
ち陶れるうこ所世のたくさんとして世間のこと
よ元とくるもむるハ愚るうれ
し世理と云れハ分のとよつまく出ことと乳
ハ人ハ美麗ものくも愚雖よあひくも所なる
くあるして出あるハ云事なるへし生ろうハ

生乃出あり立よい立のこ出あり紛あも所よも欲
合よもとるにもきるもものいるも出ものし
とと云事ものし出ありとよ生れ生て分よ
そるものなれとなりされ世出とたりて出
む人とと孔理ろ名れを出とたりて出ハ
まい出ばうるる
人りいと陶あるい公のもく家ものし自と形くし
ていたりの人ハれとふ考くい紛れるよと

ひまゆくすくなく時節のめぐりは幸てくあ
早きわくは時刻とわきて一日とハ十二時とし一月
をハ一年とし一年を以十年として一生と以下示
ましてあくまで月日をくらして後よくゞへは
梓弓いる矢のごとく年月をおくるならハ
あのがゆきハ時日のめぐるとゆくハそのむなしきを
しへとそしと名得も又時としてゐるなりんされと
光陰箭のごとく時音流るゝがはしとゐふなり

けるあくまで老ハしなくて行文年月のて
やくおる年々くるも過ぎはしれくとくりたれ
そいそらのよそひともへしもされぬ不叶とと
たといいそらの後又いそらのかるひとつく無モき
よいつるとも移りゆくうれに月日いよゝくへくゝ
わくかくおそんるのみじゆれ積るいとんさまさ
御書所齢をたのみてあそをすくさ時むしされ
うきひるましそむむかくなるあなんハいくむるのかう

やうに成ぬ其ゆへ人を同し
ゆへに老うさるれとてもせの内ゆるやかなる
へゆへに今は貴よりもとなる後の今は老うさる
事とおもうて物くるしう事とおもひ
時日と物こと一日もいとはしくすんぬるよ
うれしく時日をかりそめにすんぬるこの日
の間と日くらしに物しかし
まう身の足る事とおもうふかとやとんする人れ

なり光ものと神よりうくこ出と共ふり
知足れ所をよく思ひくはねよ云る人のいと足
るを出れ貴物あり共も出る事
と云うされく富をとさいもれも物おきなら
ひて事ましのとて富をうんいと物なる人
の足るるを出るよいくるあよ物をれる富貴
物ハ貴ものようにいとまれ物をるもあり古人の詩
よ耕牛宿食なり巖巒餘糧ありといくるわ

し貴賤も多くく不肖なる人多き也
生れ付きうるおなりうるおとやとんて
やうに移りゆくものなれとねるの人さ楽しきて
うまひ多くまさるひも楽きれうおこる愚なり
とうて世よいさいとうれかくとなる人家にて
れうり下なる人とうんく見る事をきりうおとやとん
しあと移ふされいうまひるく楽多くくとつさ
うひかく又拾ひく多く人名まれ付きる

分あるうをきうく分とやとんて天とうう
こ人をとうひ人のひて
世の中は同くくひまれくくうおこびゆる人亦良
長不幸あるれひくうる分能材あるいのうる
美人はうくこすひくくうのこ楽こ人を医
ま山人は世の楽いこうのこ芸能楽こ人と
とうひくこ芸とするふこうえうる楽こいみ
つくく盗なくこうは材とうのとはいるとハ浮家の

かとうまさ甚抑也あしよく思ひて示さんにはあら
ざる事をしるべし富ある人の心おごりて一日一事に
法いやしき財を用ひなば千万人の気を悩まする也
是行ある人し然るに百人の心をなやますは財
甚しく法いやされば少もすくひ助となくて其益大なる
ことあり然は大富人ありとされども仁心なきあらは眼
おほく人の心を悩ます悩める然ばかのあはれは
知ひやうもあるべしいかんや富貴子孫の人は多く

の人ハ気をたもくはるかいやまれるすなはち然人
家兵志乃なき然をもつて財のたくはへさる故に然
よしすかゝれ

富貴なれはまれたりおごりやすし此事をはなれさ
しる家業乃人をわすれたりおごりすくなくしてさ
としやすし富貴なれ人は世のなかにさまざま多きを
滿しばしく書をよんで道を思ふし此事をしられ
経事は富貴なるは加へ川して孝と云へし此大なる

生成はてしなきものなれば道徳よりも美しきは富なりと
とかくいふ又債書は美者の楽しいてるしるべなり
まことにあるべき愚なるべしいやはけまとらひられ
ぬものとあるべし身なれば書とうこの道をたくと
ふ楽いうるる富をあとにとうへ
人乃いのちはうこうあるひいくばくしかるべきかの
命は間乃光陰をわすれ楽しみて月日を送る
へしきものなれども益なれるものとおもひる事を

終なひ楽まずして此のくるしいとんや
うまひ若こいうるるべしてこの楽と美なるかの
うるのなかと事なく楽まずして月日をしら
くるとさは千年をかるもひかるべし
いとけなきよりさんよりの老よいるまでの
死よいるまでこの世はよりひも楽いくるべし
人の世となる事のるべしわる旅人のこと来
坂の詩の一年の一夢の百年の楽まことに若こいるもむ

へなりかくてはてさはせなれくて用のすを迎て
はは日とうしなひ或いらはらはすと事なくて山
せくれるうれはしくはねよは日と初ゝ蓋の
あるうとゝ嘗ゝ嘗ゝ居ると出ゝそすゝん
らとせよいきんうひあるくれ
ひよあくれゝゝ苦とこのそ名字和事あるゝ初
ふあゝけあらゝ人偏よゝゝゝきゝ公よ及ゝひ者
ホきそも苦ゝれとゝそなゝうゝくなり

ゆるかりそとゝ人さ
ぶねの家家ハ後宮ニて不迫世界とする人〳〵
後宮しいはゝむろあ〳〵くたつかなる式云すゝや
うよいそうりき湖を心ゆるかれあ〳〵くゆ
共方ゝ〳〵ゆ幸多くゝも心ハたつかるゝ人〳〵た
川かなるゝれんあやまるゝ多〳〵人のまれゝ遁
ているゝあさけなく学徒ゝるゝもいるゝまく言と
ゝまゝ〳〵用をいゝらけされあさゝゝきゝ海

らけゝく生成共方ゝ〳〵ゆ幸乳家絵
宮不迫かゝ〳〵
白原ゝうゝゝ日自延年ゝ術あゝ心原ゝれく歳月
長〳〵日用中日月長〳〵来拝ゝゝ事
て世静堂とれく一日ゝ毛夜日人若浴ゝ七十
ゝ〳〵ハ侵ゝ毛面原千ゝいゝるゝ心ゝかれハ月日
共ゝ幸といゝゝ九用中法ねゝ来ゝ〳〵ゝ
ゝ紀人ゝ物ゝ〳〵原式求めゝ心ゝゝゝ

心閑かにされば出世はすなはち閑静の当
体なり怠慢ときらふべからず正道なり
心安く身閑かにして獣畜なりとも高貴尊
世俗の宴遊をこのみさかりなる時
なこれまさるべきなり乃至ひとへに
なきを人の数にもつらねといふ法なりまたとひ
あるいは貴とるはひとしされど世人を白眼
みるべからざるいなさけれ礼をうしなふべ

清福といふものあり出家成道のもの必これを求
し色識去の出じ中なして俗人はもとこれをのぞみ
つるなり清福とは何ぞ貴なれども貴なれ
つとそ出家なる人まれなりたとい貴のみよ入くも
貴とをもとされども貴をもとして物のうれひ清福い
貴をもて清福とは福よりあり況貴繁なりて河
よりあるとも真実安く静かにして心のようをもひな
きをもて清福とそ云へるいと法なりと家に書を

しかん古の道を尋ぬる花橘乃香ゆゑ人ゝ出迎
又其仏風雅みて古書代々詩歌を吟し月
花とめゝ〻しみとこの〻日時乃わすれるわゝの
英(ヒ)家と昔の本のかゝるゝさめゝうゝ陸奥きとそ
宋ゝ英きれと飢寒れうまひる蔬(ソ)食日本
ゐれめをい味あゝ〻肥濃(ノウ)ゐる英味とうゝやま
以淡(タン)ゐるいかへ河て分とゆゝ宜し布の
こゝも紙のゝと後いさゝ寒代ふせくはれゝむ

くゝ和しくゝあまさる宿のよわきゝ上ても風雅
のうまひなるゝ〻ゝこゝ奇なる書代多く行へ
て楽ゝさしはさゐい美ゝとゝ人ゝ此ゝ美の英
ゐれゝ漢籍(テキ)乃今(キン)日ゐ陸されゝ又良愛ありて乃
を倫し同ゝ月花を常英して出ゝ名區佳境
ゝあゝしゝ長花乃ゐゝ形状をゝて此ゝ
花皆清福をゐるゝ〻ゝ乃ゐゝ
ゝかゝゐ福をゝゝ原い富代ゝ出ゝ陸さゐて

ものとく者ばかりてあるを
ひるがえして古の道をたづねしる
ばかりなる月むの乃ち出あり是利の富饒なる
福を得さるの感静室に安坐して書籍をよみて
楽しむ人の愛を射て座を論じ同く風月
を賞する是清福乃いとまなくまてる出るの
凡いまの世にあるかまれなる富を求人い

おろか世にあるを知をれとも安くたのしく真を者を
分家をいとなあるくつねに出むく人い世にまれなり
ことを以清福は乃富をにまさるものなるかを云
さる事とをもう人い知をあるを人を清福をなを
も出るをもて是を以人清福をもうくも分に清
福かなれは乃楽なり乃清福をなる人世にすく
なしい天の知をなるをいとうるれい尤なるをいと
いとも乃清福乃楽をもうて清福をなるをんい

世を都をくるさ福なり天の物に生ける二ろ
ら金ものを地にこめて富めるさろ邑
すべて清福をはるる人いさ〻に富をと祈るる
らに二ろ〻はんとするは欲ふるして天命にそむ
くるなる禍はなくも祈るに福きとう
やうそ足ることを知るるをもとさ〻さるはなとをも
して富をとするあり是もるるうか
福なして他郷よりそひ名称の地に水のるりま

住境よのそめいに名を藏しかたく鄙吝をあら
ひとく脚しるわり光も亦るる德をもくめ
和をひろひるるとるるるをみいひたくぬ景境
よゆさくるるれば山川のわるる海をるんく月
をなをもめ其里人よあひく裏面の風色をひ
あるいはまりさる山をもるよいをねふそろ
ねいりまるる水の癖あるて事山蔭よ入事を
さるる人いををとめくゆるるをもれねの

かい海つてゝ山遠き眼界ひろきけうえい美戸
候乃冨めゝまきれりゝ又其里に却い出てる名
産のゝ多る品々人々く其味をうゝしるゝと
いゝめつゝ山おくさむしゝきちりをゝく後此
ゝあゝしく人さゝせ事兵一時に耳目を伝
ワしるのゝなゝいく年へめゝと其附名字
せゝまさ後老の後まそ却りゝ却い出てゝ
てあゝも其附人多せ思ひゝゝ出て

思ひたのゝもこゝゆゝもあり信ゝいゝゆゝ憐思
ゝゝる是思ゝきゝ多ゝ大ゝう悲ゝ歌ゝの
二ゝいゝゝ見れたのめゝる酒合好色紛利な
ゝの私慰ゝゝえゝゝりゝぬまゝにせゝゝと男の
原川ゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まんゝゝゝ海ゝゝゝゝゝ慰ゝ却ゝの人の

情なく無慈悲なるをいふ凡人はかくそなれと
思ひこゝろ忘れいりうしなさるゝ悪を悪人なり凡
愚と愚と悪人と悪人をかきあつめ
くに人をさいりなくしてこゝろなく若こゝろ法の
うまひなくてこゝろ悪の一字より第の若
き事いつ悪しきされい第のわき事悪よりいつ
あるを古語に悪は悪の門と云つり悪のおと
りに出るよりおろく甚益大なるれ

酒い美乃美禄なりおのわいをと寶とけ
し無とやり元「事」と補ひ血まをわくし人と
歌(コロヒニ)と合せ出れ胸をく甚益多しり多くの
人く略可とれく人のるる用をるるく言
ねのくこゝろよりこゝろ法ねよりてはく
しこゝろ仏のこゝろ物とるれ古人悪を
物系といつるも悪なり甚益病とせてそこと
ひくこゝ大なるひさひとあるこゝろ法なり多欲を

いまし発されてうつくしきこと世にあるもうらぶ
ちくといふ古語は酒い徽醉よりのちもとまれ年まえ
ふるいにうり酒をのまし徽醉と泥(カキ)てこれを
共くさるべしかりぬまいのんく若くを求しへの
らと天の災禍をてこれ生とるあくこと
地うる徒いへ人ひく物素くたうる禍をも
て亡ぶとまるいひけの事ちり
いあへ乃郢(ヨイ)曲早頻の教教物く亂亂(シドロ)して

ちくうつくもいくうんゆくうかりこうる八酒
鬱(クツ)とひくさて事ゆ月ひくあへ古
人を徳を葬蹈(タウ)しく其血脈を毋を乃色
と乱まりわ事とゆ術うるへ
武士い勇とゆるとへ勇とあるはくさて
て四ふひへ法ねの附ハ和乱ふて人り
財とるに温厚ふるるへ勇天下ふ敵ひへもこ
きとゆるふ怯(ツメナキ)とんとくく家徳ふ人家ちくく

孟子に性善ハ堯舜ノ道ナリ大勇ハ性ニ
ゆゑとなり是かゝる勇とゆゑとさとる也和順よ
して後われ人われ人あれとなれば人よりあるとそれ
ぞれとさとる信義を象とゆゑとなり人ゆゑ性善
和順と失ふ人ゆゑ也其の勇者ハゆゑにあり
らゝゆゑ性善ゆゑ人ゆゑ柔和なり法良ハ其報ぬ
人のゆゑあり其義象後容とゆゑしるな
ゆゑハ其の大勇なり敬をとくゆゑ信義を
尊ぶゆゑ必ずゆゑ信義をとくゆゑ是ハ
勇なり其の勇者ハはねるハ和順なり

樂訓巻之上終